「分析支援プログラム」を活用した効果的な取組事例(小学校)

【蓮田市教育委員会】

主に校内研修での取り組んだことや今後、取り組みたいことについてまとめた。

1 分析支援プログラムを活用した学力検討など

(1) 当該学年での検討

対象となった 5 年生の学年の担任や少人数・担任外の先生を中心にブロック研修の場をつくり、4 教科すべての結果を検討した。学校集計表で全体の傾向を把握し、県平均との比較や市内の小学校との比較を行った。さらに分析支援プログラムを使って問題毎のグラフから学力の傾向を考察した。

児童の学習状況調査のテスト直しや成績表の配布においては、考察結果を生かし、 県平均より劣っているものについては重点的に解説を加えて学習させ、保護者にも 学年便りや学校ホームページ等で学力向上に向けたアピールを行った。

(2) 校内研修での学力の検討

校内研修で職員室の共有データに「分析支援プログラム」を貼付、各自のノートパソコンで操作しながら、数値やグラフを見られるようにし、4 教科の教科主任をリーダーに各教科の成績について、検討した。また、今年度の課題研修が算数ということもあり、算数に関しては、算数部会の検討の結果を報告するという形で全体会を持った。

(3) 県平均との比較による検討

4 教科の問題毎に県平均を上回ったか下回ったかが分かりやすいように、本校の成績のセルを色分けした。すでに色分けされているものを活用し、さらに、大幅に下回ったものは赤、若干下回ったものは黄色と色分けを追加して、改善項目をより分かりやすくした。

また、3年生・4年生の内容が明記されているので、その内容毎に対象学年の先生や低学年の担任の先生にも参加してもらい、今後の授業での留意点、改善点について協議し、劣った内容毎にまとめていった。

さらに、5年生で取り組めることや補習について検討した。

(4) 学習状況調査の結果から課題研修の主題を検討

昨年度の学習状況調査や教育に関する3つの達成目標検証テスト、全国学力テストの結果の検討から、本校の児童の学力は算数において低下傾向にあり、高学年になるにしたがってその特徴が顕著化することが分かった。また、計算等の習熟については個人差は大きいもののある程度良好の結果であるが、文章題など数学的思考を要するものが苦手で、理解が不十分であった。

そこで、昨年度までの研修課題である「言語力の育成」に配慮しながら「算数の学力

の向上」を目指すこととし、研修課題を一人一人が意欲をもって学習し、自分の考えを伝えられる 子の育成を目指して~算数における確かな学力の定着を図る学習指導の工夫・改善~と した。

さらに、学習状況調査の質問紙調査を発展させ、算数意識調査の項目を検討し、 昨年度 3 月に全校児童を対象にしたアンケート調査を実施した。その結果、高学年 になるにしたがって算数嫌いが増え、二極化する傾向にあることも分かった。

2 夏休みの課題やサマースクールに活用

(1) 夏休みの課題

夏休みの課題に、夏のドリルや作文、習字、図工等があるが、漢字繰り返しドリルや計算繰り返しドリルなど1学期の授業で使用し、身についたものをもう一度取り組ませることで、さらなる学力の定着をねらった。

(2) サマースクール

3年生以上の学年で夏休みの水泳学習と連携させる形でサマースクールを行った。教育支援プログラムの結果を踏まえ、県教育委員会や東部教育事務所のホームページから算数科のワークシートや教育に関する3つの達成目標検証テストの過去問、領域別の問題などをプリントアウトし、答えをつくって表裏に貼り合わせて、学年や単元毎に整理して印刷室に常備した。その中から20枚程度のプリントを印刷して、個人のファイルをつくり、自分のペースで学習に取り組めるようにした。採点は、PTAの役員や教育実習生などのボランティアにもお願いし、先生も指導に加わったサマースクールとなった。

さらに、今後、冬休みの課題としてそのファイルと算数問題の活用を図り、来年度のサマースクールへつなげるとともに、児童一人一人の学習履歴、学力診断に活用する予定である。

3 教育課程の工夫

(1) 少人数指導

学習状況調査の結果から算数科の研修を進める決定をしたことには前にも触れたが、 少人数指導の人的配置を算数科に絞ると同時に、担任外の出授業に関しても算数にウエイトをかけた配置を工夫した。具体的には、3年生以上の算数においてはできうる限り複数指導体制や少人数指導、T・Tなどを導入した。

(2) 業前の個別指導

業前の学習時間に算数タイムを位置づけ、算数の補習に取り組むと同時に、抽出児童における苦手領域の個別指導を担任外の教師が中心となって行った。